

海外安全対策情報（2016年1月～3月分）

在ユジノサハリンスク日本国総領事館

1 社会・治安情勢

昨年3月の前知事の汚職容疑による逮捕に続き、州政府幹部の解任等の頻繁な人事異動が進められたが、昨年9月には知事選が平穏に行われ新政府が発足した。当地は政治的には安定しており、現在のところ治安情勢に悪影響を及ぼすような反政府勢力等の動きは特段見られない。8月に当地市裁判所がイスラム教経典コーランの解説書籍に関し、同書籍を過激主義的資料と認定し、当地に居住するイスラム教信者が反発する状況が生じたが、その後、州裁判所が市裁判所の認定を破棄し、問題は収束した。

他方、当地ではサハリン州が北方領土を事実上「管轄」していることから、北方領土問題に対し、ロシアの他の地域と比較して極めて過敏な反応を示す傾向があり、例年2月7日（我が国では北方領土の日）或いは、その日に前後して当館建物前において、北方領土返還反対団体による抗議集会が行われている。平成27年については、「北方領土の日」に集会は行われなかったものの、11月16日、同月18日に当館建物前等において小規模な抗議集会が行われ、平成28年については、2月11日に当館建物前で北方領土返還反対団体による小規模な抗議集会が行われており、今後も引き続き注意を要する。また、本年、当地では、第二次大戦終了70周年に関連し、9月2日前後には軍事パレードや「日本軍国主義からのサハリン南部の解放」をテーマに種々の行事が実施され、サハリン州政府主催の国際学術会議においては領土問題に関する対日批判がなされたものの、反日的な集会等の開催は見られなかった。

なお、当地では現在までのところ、具体的なテロ情報はないものの、ヨーロッパではテロ事件が発生していることから、駅、空港等、不特定多数の者が集まる場所を訪問する際は、周囲の状況等に注意を払う必要がある。また、本年4月から9月までの間、日本では伊勢志摩サミット（関連会合含む）が開催予定であることから、同サミット開催期間中は、日本人、日本権益がテロの標的となる可能性が通常より高まることも考えられるので、留意する必要がある。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 一般的治安情勢に関しては、サハリン州の各地において殺人のほか、高齢者や女性などの弱者を狙った路上強盗、住居不法侵入等による窃盗、あるいは銃器を用いた凶悪犯罪、未成年者も含む女性への婦女暴行、大麻等の薬物所持・売買事案が後を絶たない状況である。殺人は、飲酒によるトラブルに起因するものが多いが、金品の強奪を目的としたものも発生している。今期においては邦人被害事案は発生しなかったが、過去には当地在留邦人が強盗被害に遭うケースも発生しており、引続き当地治安情勢への留意が必要である。

(2) 治安当局の発表によれば、2015年にサハリン州において治安当局が認知し、登録された犯罪件数は11,270件であり、2014年の11,509件と比べ、239件と僅かに減少したものの、以下の内訳にもあるとおり、殺人、粗暴行為等人の生命に直接関わるような凶悪事件の登録件数が増加しているほか、薬物違法流通についても多数発生している状況にある。また、2013年2月には、ユジノサハリンスク市内に所在する教会に男1名が侵入して銃を乱射し、2名が死亡、6名が負傷する事件が発生しており、これらの犯罪は在留邦人の生活安全上の直接的な脅威ともなりうるものであり、引き続き当地治安情勢は予断を許さない状況にあると言える。

(3) 主な内訳（括弧内は、昨年を100%とした場合）

- ア 殺人及び殺人未遂：82件（110%）
- イ 重度傷害：194件（86.6%）
- ウ 強姦及び強姦未遂：12件（63.2%）
- エ 強盗：16件（43.2%）
- オ 略奪：259件（75.3%）
- カ 窃盗：4,343件（94.1%）
- キ 詐欺：856件（139.6%）
- ク 粗暴行為：11件（137.5%）
- ケ 薬物違法流通：1,095件（89.6%）

(4) 邦人被害事案

特になし

(5) 邦人以外の被害事案（殺人・強盗等凶悪犯罪の事例）（詳細は別添の報道参照）

ア 強盗

本年1月から3月の間、ウグレゴルスク、コルサコフ、ドリンスク及びユジノサハリンスクで強盗事件が発生しており、店舗を狙った銃器、刃物を使用した強盗事件が発生している。（詳細は、別添事件詳細記事参照）

イ 殺人、過失致死等

本年1月から3月の間、コルサコフ、ノヴォアレクサンドロフスク、ティモフスク、ドリンスク、ホルムスク、ポロナイスク及びユジノサハリンスクで殺人事件が発生しており、飲酒中の喧嘩から殺人に発展した事件、知人間の喧嘩及び夫婦喧嘩から殺人に発展した事件、ホームレスを殺害し、遺体を切断、遺棄する事件が発生しているほか、殺人の容疑者が逃走中、追跡していた警察官に対し銃器を発砲する事件が発生している。（詳細は、別

添事件詳細記事参照)

ウ 暴行・傷害・強姦等

本年1月から3月の間,シャフチョルスク,ホルムスク及びユジノサハリンスクで暴行事件が発生しており,知人,夫婦間で飲酒中に喧嘩となり,ナイフ等を用い,暴行に及んだ事件,飲酒により酩酊状態にある男が女性宅に侵入し,強姦行為に及んだ事件が発生している。(詳細は,別添事件詳細記事参照)

エ 窃盗等

本年1月から3月の間,窃盗事件に関してはサハリン州内の各所で頻発しており,空き巣,スリ等のほか,ホテルの従業員が宿泊客の現金を盗む窃盗事件が発生している。(詳細は,別添事件詳細記事参照)

オ 薬物・銃器・爆発物

本年1月から3月の間,アレクサンドロフスク・サハリンスキー,コルサコフ,スミルヌイフ,トマリ及びユジノサハリンスクにおいて銃器,薬物,爆発物の不法所持等の事件が発生しており,薬物事件では大麻系麻薬,デゾモルヒネ(クロコダイル)及びエクスタシーの違法所持,販売事件が発生している。銃器及び爆発物事件では,拳銃,ライフル,手榴弾,火薬等の違法所持事件が発生している。(詳細は,別添事件詳細記事参照)

3 誘拐・脅迫事件発生状況

本年1月から3月までの間,誘拐事件については,マカロフにおいて,10歳の男児が誘拐される事件が発生しており同事件については,後日,治安当局により,同男児を無事保護,され,容疑者を拘束されている。

脅迫事件については,本年2月及び3月に,ユジノサハリンスク市内の市行政府庁舎,裁判所,駅,空港及びショッピングセンターに対し,爆弾を仕掛けたとの脅迫電話があり,当地内務局,非常事態省等が出動,職員,客を避難させる事件が発生したが,治安当局が警察犬等を用い,各所の検索を行うも爆発物は発見されなかった。(詳細は,別添事件詳細記事参照)

4 日本企業の安全に係る諸問題

特になし

事件詳細記事 (s a k h . c o m等から事件記事を引用)

1 強盗

- ① [強盗] 1月16日,ユジノサハリンスク警察に早朝のバス停留所で自分の未成年の子から何者かが携帯電話を奪い取ったと男性が申し出た。損害は1万8000ルーブルになる。警察は,事件の状況を明らかにした。子供は停留所でバスを待っていた。その際,近くを通った男性が子供の手から電話を奪い取り,急いで何処かへ姿を消した。警察は捜査過程で犯人を特定し,犯罪発生から約2時間後に犯人を拘束した。容疑者はすでに電話は質屋に渡していたが,手に入れた現金は,費消していなかった。容疑者男は,1985年生まれ,以前,強盗行為で何度も裁判となっていたことが判った。この事実に関し,刑事事件が提起され,容疑者は監視下にある。携帯電話は押収され,間もなく所有者に返還されるだろう。
- ② [強盗] 2月4日,若い男性が女性と知り合い,彼女を自分の家に招待した。家の中でその女性は男性に金はあるかと尋ねた。女は,彼が肯定的な回答をするとすぐに,男性に飛び掛かり,彼をベットに追いやって,腕を抑制し,ズボンのポケットから金を奪った。その後,犯人は事件現場から姿を消した。被害者は,警察に事件を通報した。ウグレゴルスク内務部の警察官は,38歳の地元の女を容疑者として特定した。拘束された女は,以前から警察にマークされ,前科があった。ロシア刑法典に規定の強盗により刑事事件が提起された。
- ③ [強盗未遂] ドリンスクで警察が店員を襲った強盗を摘発した。事件は,2月12日午前1時に発生した。客が24時間営業の商店に立ち寄り,直ぐにレジに向かった。男性客は,女性店員に拳銃の様な物を向け,レジから現金全部を渡すよう要求した。店員は怯まなかった。女性店員は,警報ボタンを押し,金を犯人に渡そうとはしなかった。犯人が店の出入口に居た状況を利用して,女性店員は,犯人を店から追い出し,店内に立てこもった。容疑者は事件現場から姿を消した。警察の捜査班が現場に到着した。監視カメラの映像及び他の証拠物件を使用して,警察官は犯人を特定することができた。間もなく,警察が家に居た強盗犯を拘束した。警察は,被害者を脅した物件を押収した。物件はおそらく空気銃だった。刑事事件が提起された。
- ④ [強盗] 2月26日,コルサコフ地区内務部において,地元の葬儀社の1つから強盗に関する通報を受けた。会社の女性職員である被害者が伝えたところによると,事務所に黒い服装の不明の男が立ち寄った。顔に医療用マスクを付け,ナイフを持っていた。ナイフで脅迫してきた犯人は,女性に実力を用い,金銭を奪い,事件現場から姿を消した。追跡により,刑事課の警察官は,犯人の居場所を特定し,彼を拘束した。犯人は41歳のユジノサハリンスク在住の男だった。警察は直ぐに活動を開始し,犯人に証拠隠

滅を許さず、マスク、ナイフのほか、金銭を発見した。その後の警察の捜索活動措置の過程で、この男は武器及び弾薬の違法保管に関与していたことも明らかとなった。容疑者宅の捜索の過程で、外国製の狩猟用散弾銃、散弾の様な弾丸26発のほか、灰色の粉末物質（火薬と思料される）の入ったプラスチックケースを発見した。犯人は、ライフルを昨年、ゴミ捨て場で見つけ、保管することを決めたと説明した。発見された物件は押収され、鑑定に送られた。強盗により刑事事件が提起された。武器と弾薬の違法保管に関する刑事事件の提起が検討されている。

⑤〔強盗〕 コルサコフ地区内務部の刑事課の警察官は、強奪行為の容疑で容疑者を拘束した。被害者は、警察に申告していなかったが、捜査官は事件に関する情報を得ていた。3月23日警察官は、旅客輸送に従事している事業者の内の1つの運転手の捜索を行った。運転手の男は、2週間前、コルサコフのプリモールスキー公園地区において、タクシーの客が金銭を盗もうとしたと説明した。この際、犯人は、拳銃の様な物で脅してきた。男は更に、司法機関には通報しなかった、なぜなら、最初の数日はショック状態で、何をしたらいいのか全く分からなかったと説明した。直ちに、捜索活動措置が行われ、その結果、犯人が拘束され、今後の捜査のため、警察署に護送された。容疑者は、3月9日深夜、午前3時30分ころ、タクシーを頼んだ。その上、犯人は事前に、犯行を計画し、空気銃を所持していた。間もなく、タクシーが到着した。犯人は、乗車し、住所を告げた。タクシーが指定の住所に到着した際、犯人は、武器を取り出し、それを運転手の頭に突きつけ、金銭を要求した。被害者は、ゆっくりとシートベルトを外し、車外に逃げることができた。犯人は、後ろで射撃していたが、逃げることができた。その後、容疑者は、姿を消した。23歳の容疑者に関して、彼が何度も裁判に掛けられ、昨年1月に刑務所から出所していたことが分かった。犯人は自ら金が必要だったことから犯行を行ったと説明した。捜索の結果、押収された空気銃は、サハリン州内務局犯罪鑑定センターに鑑定に出された。刑事事件が提起され、犯人は拘禁下にある。

⑥〔強盗〕 3月27日10時49分、民間警備の拘束グループの職員が、ユジノサハリンスクの質屋の1つが襲撃されたとの通報を受けた。3分後、警察官が到着し、事件現場で容疑者を拘束した。被害者の娘の話によると、彼女が質屋に入ると、容疑者が彼女を追って部外者立入禁止の隔離された場所に入ろうと試みた。その後、顔を医療用マスク、帽子、サングラスで隠した容疑者の男は、もし、女性が言うことを聞かなければ、ナイフで切ると言いながら、女性の首を絞め、金庫を開けるよう要求した。しかし、19歳の質屋の女性従業員は、強盗犯の要求を拒否し、犯人を質屋から追い出そうとしたが、犯人は、彼女の頭部や体を何度も殴り始めた。ある瞬間、女性は警報ボタンを押した。その後、彼女は、事件現場から逃走しようとする強盗を抑止した。警察が到着するまで、犯人は逃走しようとしたが、彼女は逃さなかった。被害者女性は、犯人がナイフを持っているのを見ていないと話した。容疑者の身体検査の際、警察は、犯人から武器は発見されなかった。強盗犯は自らの行為で、市民に痣、頭部血腫の負傷を負わせた。警察

官は拘束者をユジノサハリンスク市警察に護送し、そこで容疑者は自白した。容疑者は51歳の麻薬中毒者であることが明らかとなった。過去に容疑者は何度も法を犯していた。最後は、2014年に容疑者は、犯罪行為により裁判となり、容疑者に2年間の自由剥奪刑が言い渡された。しかし、昨年7月に、戦勝70周年を記念し、恩赦が下っていた。ロシア刑法典に規定の強盗により刑事事件が提起された。現在、容疑者は拘禁下にある。

2 殺人,過失致死等

- ①〔殺人〕1月13日夜、サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク捜査課において、ノヴォアレクサンドロフスクの第2クラスノセリサカヤ通10のあるアパートで暴力による死の痕跡のある64歳のこのアパートの男性所有者の遺体を発見したとの通報を受けた。遺体の法医学検査により、男性は頭部の開放性外傷の結果、死亡した。この事実に関し、同捜査課によりロシア刑法典に規定の殺人により刑事事件が提起された。同捜査課は警察と合同で総合的に捜査活動及び犯罪を行った犯人の行方について捜索活動を行っている。
- ②〔殺人〕1月27日、コルサコフ市プリモールスキー・ブリバール通2のある家屋において、外見上、暴力による死の痕跡が認められない54歳の地元男性の遺体の発見に関する通報を受けた。男性の遺体の司法医療鑑定の結果によれば、肝臓損傷を伴う腹腔内損傷を受けた結果、死亡したことが判った。ロシア刑法典に規定の殺人により刑事事件が提起された。サハリン州捜査委員会コルサコフ捜査課と警察が合同で総合的な捜査活動及び犯罪行為を行った者の特定のための捜索活動措置が行われている。
- ③〔殺人〕サハリン州捜査委員会アレクサンドロフスク・サハリンスキー捜査課において、同市ヤナ・ファブリツィウサ通37-2のあるアパートにおいて、胸部に刺傷のある76歳の同アパートの男性家主の遺体が発見されたとの通報を受けた。刑事事件が提起された。捜査の過程で1月28日の昼、49歳の地元の女が、現金と食料を貰う目的で親戚の家を訪れた。話し合いの過程で彼らの間で喧嘩となり、女性がナイフを取り、被害者の胸部を1回刺した。ナイフによる怪我で被害者は死亡した。このあと女性は食料品が入った袋を手に取り、そして、事件現場から姿を消した。刑事事件捜査が続けられている。
- ④〔殺人〕2月1日、サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク市捜査課において、同市ミーラ大通り195に所在のあるアパートにおいて胸部の刺傷のある52歳の同アパートの男性家主の遺体を発見したとの通報を受けた。殺人により刑事事件が提起された。同捜査課捜査員と警察が合同で容疑者の捜索を行っている。
- ⑤〔殺人〕2月4日、トラムブス村マルスカヤ通りのある家屋において、暴力による死の痕跡のあるこの家の32歳の男性家主の遺体を発見したと以前、サハリン州捜査委員

会が発表していた。捜査委員会は捜査を行っていた。法医学鑑定の結果によれば、男性の遺体は、肋骨骨折、肝臓破裂、擦過傷及び打ち身の状態の身体的損傷が発見された。捜査によれば、被害者は、自分の34歳の兄と母親と一緒に暮らしていた。2月3日、母親が仕事から戻ると、息子達がアルコール飲料を飲んでおり、彼らの家の不満を言い出し、兄が大声で母親に叫び、口論となった。弟は母親を擁護し、兄弟喧嘩となった。その後、母親は家を出て行き、兄弟喧嘩は続き、喧嘩の過程で兄は弟の体の様々なところを腕や足で殴った。喧嘩が収まり、兄は床に倒れた弟を起し、弟をベットに寝かし、その後、兄は家から立ち去った。翌朝、容疑者は、弟の遺体を発見した。刑事事件捜査が続けられている。

- ⑥〔殺人未遂〕サハリン州捜査委員会ティモフスク地区捜査課によって、38歳のティモフスク在住の男性に対する殺人の企図によりロシア刑法典の殺人未遂で刑事事件が提起された。捜査によると2月6日、被害者は、40歳の自分の妻と知人女性とともに自分の家で飲酒していた。飲酒の過程で妻は知人に嫉妬し、夫婦の間で喧嘩となった。その結果、妻は包丁を手に取り、夫の胸部と背中部分の部分を2度刺した。妻の行為は居合わせた知人が妻から包丁を取り上げ、阻止された。被害者は、直ぐに中央病院に搬送され、最初の診察を受けた。この刑事事件により、証拠の収集と確保に向け捜査活動が行われている。
- ⑦〔殺人〕2月15日午後、ホルムスク市コムソモリスカヤ通り11のゴミ収集用コンテナの上にビニール袋に入った男性の遺体の一部が発見された。解体された遺体は、ゴミを片付けていたゴミ収集会社の職員が発見した。死者の外観は、50歳、顔は浮腫み、足は泥で汚れており、住民達は、死者はホームレスだった可能性があるとして推測していた。その後、同市ポベダ通りのゴミ収集用コンテナから同男性の胴体が発見された。刑事事件が提起された。捜査委員会によると殺害された者は、39歳のアレクサンドロフスクサハリンスキー出身のホームレスであった。現在、捜査委員会ホルムスク捜査課と警察が合同で総合的な捜査活動及び殺人の容疑者の特定に向けた捜索活動措置が行われている。捜索活動措置の過程で被害者の身元を特定し、容疑者は、特に重大な犯罪行為により、直後に刑事課の捜査員によって拘束された。48歳のホームレスの男が容疑者だった。内務局の幹部によって、職務に従事した者に対し警察官賞を贈ることが決定された。
- ⑧〔殺人〕捜索活動措置実施の過程でサハリン州内務局刑事課の警察官によって、殺人容疑の捜索で42歳の男が拘束された。警察官に、犯人がアレクサンドロフスク・サハリンスキー市ルゴバヤ通りに所在の自宅から姿を消したとの情報を受けた。犯罪行為が重大であると考慮され、犯人の緊急拘束に関する決定が執られた。捜査活動実施の際、犯人は抵抗を示した。犯人は、司法機関から逃走を試み、銃火器で警察官を銃撃した。勇気とプロフェッショナルリズムを発揮して、警察官は武装した男を拘束した。精巧な行動により、警察官は作戦実施の際、誰も被害を受けなかった。押収された犯人

が所持していた武器は、改造された圧縮空気銃「I J 7 9 - 8」であると判った。同様に犯人捜索の際、7発の口径9ミリの弾薬が発見された。現在、容疑者は監禁されている。

- ⑨〔殺人〕サハリン州捜査委員会ポロナISK市捜査課において、ボストーク村プリモールスカヤ通り1のアパートの1つで暴力による死の痕跡がある64歳のこのアパートの所有者男性の遺体を発見したとの通報を受けた。この事実により、同捜査課によってロシア刑法典の殺人で刑事事件が提起された。同日、この犯罪への関与者が明らかにされた。関与者は、前科のあり、2015年9月17日に刑務所から出所してきた23歳の地元の男と2名の17歳のボストーク村在住の男であることが判った。前科がある容疑者に対し、ポロナISK市裁判所によって、審査請求のため拘禁下による身柄保全措置が選択され、未成年者達に対して自宅拘禁が選択された。捜査によると、昨年8月28日深夜から29日に、上述の未成年者達とその知人は、被害者の体の様々なところを何度も殴打した。被害者は病院に搬送され、犯人達に対して警察は重度傷害で刑事事件を提起した。今年2月23日から24日にかけての深夜、酔っていた容疑者達は、被害者に許しを請うほか、彼らに対する被害者の証言を撤回してもらったため、被害者の家を訪れた。被害者の意思に反して被害者のアパートに侵入し、被害者に拒否されると容疑者達は、被害者の体の様々なところを手や足、棒で何度も殴打した。被害者を殴る過程で23歳の容疑者はキッチンに行き、包丁を手に取り、被害者の胸部を一度刺した。その後、23歳の容疑者と未成年者達は事件現場から姿を消した。この刑事事件に関して、証拠の収集と確保に向けた捜査が行われている。
- ⑩〔殺人〕サハリン州捜査委員会ホルムスク捜査課において、チェーホフ村パルコーバヤ通り29のアパートの1つで頸部に絞殺痕のある暴力による死の痕跡がある62歳のこのアパート男性所有者の遺体が発見されたとの通報を受けた。この犯罪行為の容疑で47歳の被害者の甥が拘束された。彼に対し、ロシア刑法典の殺人により刑事事件が提起され、拘禁下による身柄保全措置の選択が検討されている。捜査によると、2月29日朝、容疑者は、叔父の家を訪れ、そこで、彼らは飲酒し始めた。家主は、甥にこれ以上、癌の痛みには耐えることはできない訴え始め、甥に、死ぬことを手伝ってほしいと頼んだ。数時間後、甥は、同意し、ビニール袋を手に取り、首に掛け、被害者を絞殺した。その後、甥は、自宅に帰り、被害者の妹であり、自分の母親に事件について伝えた。刑事事件の捜査が続けられている。
- ⑪〔殺人〕3月9日深夜、サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク市捜査課において、レーニン通り283のアパートの1つで暴力による死の痕跡がある31歳のこのアパートの所有者の遺体が発見されたとの通報を受けた。遺体の法医学鑑定の結果によると、男性の死因は、肺と心臓の損傷を伴う胸部への複数の刺傷があった。この事実に関し、捜査課によって、ロシア刑法典の殺人で刑事事件が提起された。現在、捜査課と警察が合同で総合的な捜査活動及び犯罪を行った個人の特定に向けた捜索措置が行

われている。

- ⑫〔殺人〕 3月11日深夜、サハリン州捜査委員会ドリンスク捜査課において、パクローフク村ノーバヤ通り9に所在のアパートの1つでナイフによる負傷がある44歳のこのアパートの所有者の遺体が発見されたとの通報を受けた。捜査によって、この犯罪行為は、39歳の被害者の妻が行ったことが分かった。女に対し、ロシア刑法典の殺人により刑事事件が提起された。捜査によると被害者は、不道德な暮らしぶりであり、酒を乱飲し、働かず、アルコール酔いの状態で妻を殴っていた。妻は、2つの仕事を掛け持ちし、未成年の息子がいる家族を養っていた。午前11時に深夜勤務から家に帰宅した女は、自分の夫が知り合いとともに飲酒しているのを発見した。夫は強い酒を持っており、女は夫にベッドに行くよう頼んだ。知り合いの男には家から出ていくよう頼んだ。夫が目覚めた後、夕方には夫婦の間で喧嘩となった。喧嘩の過程で夫は、妻を侮辱し、殴り始めた。妻は、殴らないよう、落ち着くよう頼んだが、夫は反応しなかったことから、妻は包丁を掴み、被害者の胸部と腹部を2度刺した。その後、容疑者の女は、隣人のもとへ行き、救急班を呼ぶよう依頼した。救急隊は、到着場所で男性の死亡を確認した。証拠の収集と確保に向けた捜査活動が行われている。
- ⑬〔殺人〕 3月15日、サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク捜査課において、ユジノサハリンスク市レーニン通り283のアパートの1つで暴力による死の痕跡がある31歳のネベリスク出身の男性の遺体を発見したとの通報を受けた。この事実により、捜査課によってロシア刑法典の殺人で刑事事件が提起された。26歳の被害者の知り合いの男が同容疑で拘束された。男に対し、取調べ請願により市裁判所によって拘禁下での身柄保全措置が選択された。捜査によると、容疑者は、客として被害者のもとを訪れ、そこで彼らは飲酒した。つかみ合いの喧嘩となり、その結果、容疑者は包丁を手に取り、被害者の胸部と腹部を少なくとも20回刺した。その後、容疑者は、アルコール飲料のボトルをビニール袋に集め、被害者の電話を奪い取り、玄関ドアの鍵を閉め、事件現場から姿を消した。現在、この刑事事件により、証拠の収集と確保に向けた捜査活動が行われている。
- ⑭〔殺人〕 サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク捜査課において、ユジノサハリンスク市クラスナセリスキー小路4のアパートの1つで暴力による死の痕跡がある住居不定の51歳男性の遺体を発見したとの通報を受けた。捜査課によってロシア刑法典に規定の殺人により刑事事件が提起された。この犯罪行為の容疑で、複数の前科及び2015年に殺人行為で刑務所から仮出所した59歳の男が拘束された。捜査によると、容疑者と被害者は酒を飲んでいて、飲酒の過程で被害者が何度も容疑者にどこで、どのように犯罪行為で刑に服したのか尋ねた。容疑者はこの話にうんざりしたので、容疑者は、これ以上何も話さないと言い、被害者は容疑者に対し卑猥な悪口を言い始めた。容疑者はこの言葉に怒り、部屋に行き、ナイフを手に取り、戻ってくると被害者の胸部と腹部を2度刺した。その後、容疑者は事件現場から姿を消した。この刑

事事件に関して、証拠の収集と確保に向けた捜査活動が行われている。

- ⑮〔殺人〕 3月15日夕方、コルサコフ中央病院の救急救命科に、刺傷を負った36歳の地元男性が入院し、3月16日の朝、彼は亡くなった。この犯罪行為の容疑で、前科がある29歳の被害者と同居する女が拘束された。容疑者に対し、サハリン州捜査委員会コルサコフ市捜査課によって、犯罪構成要件により刑事事件が提起され、容疑者は、こ拘禁下での身柄保全措置が選択された。捜査によると、容疑者はアルコールによる酩酊状態にあり、嫉妬が原因で同居の被害者に少なくとも10回以上、体の様々な部分をナイフで刺した。この刑事事件に関して、証拠の収集と確保に向け、捜査が行われている。
- ⑯〔殺人〕 3月17日、サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク市捜査課において、共同宿舎（クリリスカヤ通り18）の1つで体に複数の刺傷がある暴力による死の痕跡が認められる60歳の共同宿舎の所有者の遺体が発見されたとの通報を受けた。容疑者は、複数の前科があるホルムスク在住の男であることが分かった。捜査によると、容疑者と被害者は、3月17日で通りで知り合っていた。被害者は、容疑者を家に客として招いた。共同宿舎には、容疑者と被害者のほかに女性も居り、皆で酒を飲んでいった。夜に、容疑者は、女性に注目し始め、容疑者との性的関係を求め始めた。女性は要求を拒否し、被害者は、女性を擁護し、容疑者に止めるよう要求したが、容疑者は、包丁を手に取り、少なくとも12回以上、被害者の胸部、腹部を刺した。被害者が亡くなった後、容疑者は事件現場から姿を消した。警察の刑事課の警察官が容疑者の居場所を特定し、3月19日深夜、容疑者は拘束され、捜査課に護送された。取調べの過程で、容疑者は自白した。現在、容疑者に対し、拘禁下での身柄保全措置が取られている。刑事手続きにより、事件状況の特定及び罪状認否のための証拠の補強に向けた捜査活動が行われている。
- ⑰〔過失致死〕 サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク市捜査課によって、ロシア刑法典の重大な健康被害の故意の惹起（過失致死）により刑事事件が提起された。3月26日、ルゴボエ村ジェレズナダロジナヤ通り2の家屋において、同居人の中で嫉妬から喧嘩となり、その過程で30歳の容疑者の男が、33歳の被害者女性の頭部、身体を手や足で何度も殴打した。3月27日に女性は州立病院で内臓損傷、大量出血、腹部外傷の結果、亡くなった。容疑者は拘束され、予審官によって、裁判所に容疑者に対する拘禁下による身柄保全措置の選択に関する請願書が送付された。

3 暴行・傷害・強姦等

- ①〔傷害〕 1月27日夜、ユジノサハリンスクとシャフチョルスクにおいて、重大な健康被害（重傷害）事実が2件記録された。両事件において、全ては、過度なアルコール飲料を飲用した宴席から始まった。男達が飲べば飲むほど、相応の行動となった。会話の中で、過去の嫌な話となり、間もなく、口喧嘩となった。51歳のユジノサハリンスク

在住の男は、錐を使用し、同居していた息子の胸部を1回刺した。被害者は、胸部の刺傷により気胸と診断により州立病院に入院した。そして、シャフチョルスクでは、40歳の地元の男が、相手をナイフで2回刺した。医師は、ナイフによる胸部、腹壁の負傷、気胸と診断された被害者を救護した。事件現場に到着した警察官によって凶器を含む様々な証拠物件が押収された。これらの事実に関し、刑事事件が提起され、両犯人は現在地を離れない旨の誓約者へのサインによる身柄保全処分状態にある。

- ②〔強姦〕サハリン州捜査委員会ホルムスク捜査課において、52歳のチェーホフ村在住の女性から彼女に対し強姦を行った同村の男への刑事責任の追及に関する申告を受けた。男に対し、ロシア連邦刑法典の強姦罪の規定された犯罪構成要件で刑事事件が提起された。捜査によると、2月23日深夜、容疑者は飲酒による酩酊状態にあり、被害者の意思に反して、彼女のアパートに侵入し、その後、自らの身体的優位性を利用して、抵抗を抑制するため、女性の頭や体の様々な部分を手や足で何度も殴った。その後、被害者の意思を挫き、容疑者は女性に対して性交強姦を行った。刑事事件捜査が続けられている。

4 窃盗等

- ①〔窃盗〕1月7日、ユジノサハリンスク警察において、ホテルの部屋から18万5000円が盗まれたと通報したウラジオストク居住の男性の申告を受理した。捜査の過程で捜査官達は、金は、25歳のホテルのメイドが盗んだことを突き止めた。被害者は数日間、ユジノサハリンスクから離れていたことが判った。容疑者は、被害者の部屋を片付けながら、現金を見つけた。毎日、彼女は少しずつ現金を盗んだ。彼女は現金を様々な銀行で換金し、その後、必要な物を購入するため手に入れた現金を費消した。以前から容疑者は、警察マークされ、前科がある。被害者の損害は、10万1750ルーブルと見積もられる。刑事事件が提起された。容疑者に対し、現在地を離れない旨の誓約書へのサインによる身柄保全処分措置が選択された。
- ②〔窃盗〕2月10日深夜、ユジノサハリンスクにおいて、交通警察官の注意が様々な物を馬で運んでいる2名の若者に向けられた。その後の捜査の過程で、この男達は、サランスク通りの施錠していないガレージに忍び込み、そこから物品を盗んだ。警察官はガレージの所有者を捜索した。男性は、ガレージから穴あけ機、電動ドリル、溶接装置、洗車機、発電機、切断機が無くなったと説明した。被害者の損害額は6万5000ルーブルになった。刑事事件が提起された。犯人達は自供した。容疑者に対し現在地を離れない旨の誓約書へのサインより身柄保全処分が選択された。
- ③〔窃盗〕2月11日夜、警察の当直において、35歳のユジノサハリンスク在住の男性から彼の日本製の自動車が盗まれたとの通報を受けた。男性は、女性が車を運転していったと説明した。彼は、ホルムスクの道路に近くにある商店で車を止めた。その後、彼は商店から出てくると自動車がなくなっていることに気付き、警察に通報した。ユ

ユジノサハリンスクにおいて、捜索計画が実施され、間もなく、民間警備員によってノヴォアレクサンドロフスクのヴォストーチヌィ通りを通行していた捜索対象の自動車が発見された。警察は自動車の追跡を開始し、拡声器により再三、停車を求めたが、女は従わなかった。警察は女の車と並んだ際、運転手に対し、停車に応じない場合の武器の使用について警告した。しかし、3度の上空への警告射撃でさえ、不十分であった。犯人の女は、追跡から逃れることを試み続けた。他の交通への生命と健康に危険があったことから警察は車輪に向け射撃することを決定した。正確に射撃が左側の両車輪に行われた。その後、車は動くことが出来なくなり、停止した。車の運転席には女が乗っており、警察によって拘束、護送された。なぜ、女が逃走を試みたのか間もなく明らかとなった。昨年からは、犯罪行為で連邦捜査の対象となっていた。このほか、女は盗みで前科があることが判った。刑事事件が提起された。

5 薬物・銃器

- ① [銃器・薬物] 1月14日、ユジノサハリンスク警察の機動捜査班は、事件現場の検査の過程で、46歳の地元の男のアパートにおいて不審な物件を発見した。事件現場から特殊に臭いがある植物由来の物質及び16口径の単銃身の狩猟用ライフル、「I J - 18」と思われる拳銃とその弾丸10発を押収した。押収物は警察の犯罪鑑定センターに鑑定に出された。専門家は、鑑定資料は、総量71.95グラムの大麻物質であるとの結果を出した。刑事事件提起に関して検討されている。
- ② [薬物] 1月26日、サハリン州麻薬流通対策局の捜査員は、大陸からのハシシオイルの供給経路を閉鎖し、サハリン州での麻薬販売の犯罪行為を阻止した。捜索活動措置の結果、麻薬流通対策局の捜査員は、ユジノサハリンスクにおいて、麻薬販売を行っていた3名のキルギス人の男を拘束した。犯罪形態は次のようになっていた。犯罪グループの内の1名が、大陸からのハシシオイルの入手が可能であったことから、友人とともに犯罪の謀議を始めた。それは、麻薬を小分けにしなければならなかった。その後、犯罪グループ2名は、3名に変わった。捜索の結果、麻薬流通対策局の捜査員によって、男達と犯罪現場から約200グラム、金額にして40万ルーブル以上になるのハシシオイルが押収された。犯罪ビジネスを行っていた者たちに対し、麻薬流通対策局の捜査員によって刑事事件が提起され、犯人それぞれが拘禁下による身柄保全処分措置が選択された。刑罰は、20年までの自由剥奪になる可能性がある。
- ③ [薬物] 36歳のユジノサハリンスク在住の男のアパートで警察官は、麻薬物質の入った注射器2本を発見した。鑑定により、注射器の中に入っていたのは、0.14グラムのデゾモルヒネ（クロコダイル）であることが明らかとなった。この事実に関し刑事事件が提起された。1月31日、警察は、更にもう1件、違法薬物所持を阻止した。ユジノサハリンスク市クリリスク通りのある家において、警察は植物性物質を発見、押収し、3名のロシア人の男を拘束した。押収物は鑑定に送られた。この事実に関し

て捜査が行われている。薬物の様な物質は、1月31日に交通警察の警察官が発見した。午前零時10分ころ、ユジノサハリンスク市チェーホフ通りで警察官は不審な車を発見し、車を止めた。車には、40歳の運転手のほか、2名が乗っていた。彼らの内の1名である30歳の男は明らかにイライラし、話すことを避けようとしていた。検査の過程で彼のジャンパーのポケットの中からビニールの小袋に入った白色粉末が発見、押収され、鑑定に送られた。今後の捜査のため、事件現場にユジノサハリンスク内務部の機動捜査班が呼ばれた。捜査は続けられている。

- ④〔薬物〕2月1日夜、オハ市内務部の刑事課職員によって、23歳のユジノサハリンスク在住の男が拘束された。数分前にこの若い男は、郵便局で小包を受取った。警察官がこの小包を開けた際、その中にお茶の箱を発見した。警察官は箱の中に「MULYAJ」と記載された物件を発見した。以前から警察はこの小包をマークしていた。発見物の鑑定書によると、それらの物件は約7グラムのハシシオイルであることが明らかとなった。この小包の発送人はロシアの他の地域に住んでいる知り合いであると拘束された男は説明した。そして、彼は、小包の中は麻薬であるとすぐに予想した。この事実に関して刑事事件が提起され、容疑者に対して、現在地を離れない旨の誓約書へのサインによる身柄保全処分が選択された。
- ⑤〔銃器〕2月4日、トマリ地区内務部の警察官によって、59歳のクラスノゴルスク在住の男のアパートの捜査が行われた。部屋の1つから警察官は、銃剣、拳銃及び銃床のない日本製ライフルのような物件を発見した。家主は、これらの物は、約6年前にある森林地帯で見つかったと説明した。1940年代に、サハリンは日本とソ連の間で戦闘が行われた戦場だった。おそらくこの男はそのような場所の1つに行き当たった。男は、発見した物を自宅に持ち帰り、今まで保管していた。発見物は鑑定に送られ、捜査が行われている。
- ⑥〔銃器〕2月9日、スミルヌィフ警察の警察官によって、隣家をライフルで射撃した58歳の男が拘束された。全ては、拘束された男の妻が病院に訪れ、夫が家にいないときだけ、家を監視してほしいと女性隣人に依頼したことから始まった。隣人はこの依頼に同意した。数時間後、容疑者が戻ってきた。容疑者は家の裏から隣人が監視しているのに気づき、隣人が何かを盗んだと考え、状況を確認するため隣人の下へと向かった。女性と彼女の夫は、窃盗はしていないと否定した。その際、容疑者は、「全員、撃ち殺す」と話し、家に戻った。その後、容疑者は、ライフルを持って戻り、少なくとも10発、家に向けて銃撃した。その際、女性は床に伏せ、夫に対して、警察に電話するよう叫んだ。直ちに、機動捜査班が事件が発生したロシノ村に出発した。事件現場に到着し、警察官は容疑者が自分の家に立てこもっていることがわかった。警察官は家に侵入し、そこで飲酒していた容疑者を拘束した。彼の家で、ライフルのほか、12口径の弾丸60発、弾薬、火薬、武器用オイルが入った注射器、武器用グリースが入った缶が発見された。物件は押収され、鑑定に送られた。拘束者は以前から警察にマークされ、前科が

あった。捜査が続けられている。

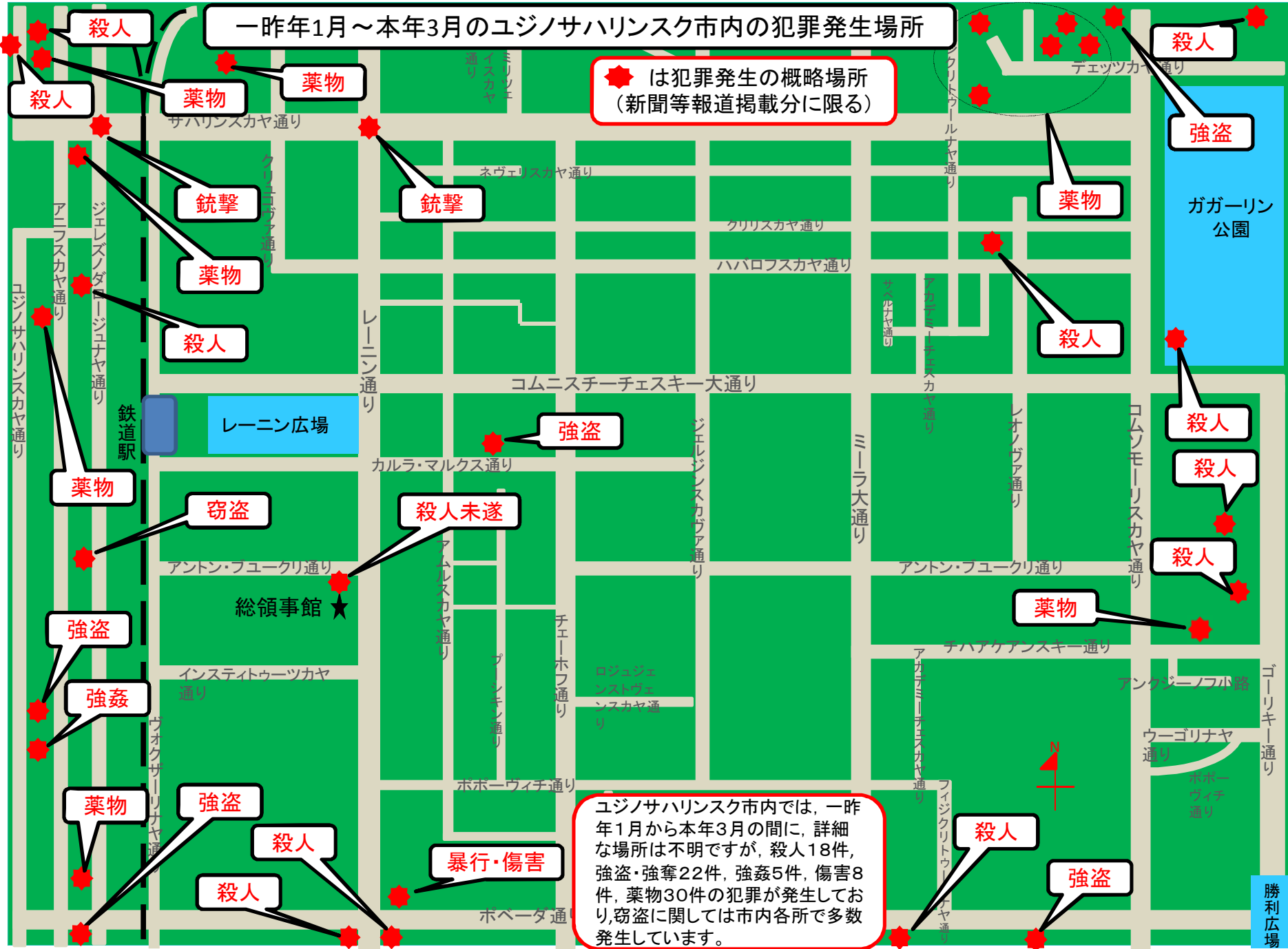
- ⑦〔銃器〕 2月10日、アレクサンドロフスク・サハリンスキー内務部の警察官が捜索活動の過程で地元在住の男が所持していた12口径の狩猟用散弾ライフル銃及び同猟銃用の弾丸24発を押収した。警察官は、男がこの銃等をビアフタ村在住の1982年生まれの子供から4000ルーブルで購入していたことを明らかにした。容疑者自ら、弾丸付のライフルは、義父から彼に所有が移ったと説明した。現在、捜査が続けられている。
- ⑧〔爆発物〕 ユジノサハリンスク内務部においてノヴォアレクサンドロフスクの住民が家で弾薬を保管しているとの通報を受けた。指定の住所に機動捜査班が到着し、物置の捜索を行っていた際、缶の中に5個の手榴弾を発見した。男は、押収された弾薬の出所を説明することができなかった。サハリン州内務局犯罪鑑定センターの鑑定は、それらが爆発物であることが示された。ロシア刑法典の武器、弾薬、爆発物及び爆破装置の不法な取得、引渡し、販売、保管、輸送又は所持により刑事事件が提起された。46歳の男に対し、現在地を離れない旨の誓約書へのサインによる身柄保全措置が選択された。
- ⑨〔薬物〕 サハリン州麻薬流通対策局の捜査員は、麻薬販売人を拘束した。48歳のユジノサハリンスク出身者と共犯者は、麻薬を販売している際に拘束された。ユジノサハリンスク在住男のアパートの捜索の過程で麻薬流通対策局の捜査員は、隠し場所で約1キログラムのハシシオイルを発見した。拘束者は、独房に送られた。サハリン州麻薬流通対策局の捜査官によって刑事事件が提起された。男は20年までの自由剥奪になる可能性がある。
- ⑩〔爆発物〕 3月24日にコルサコフとスミルヌィフの警察によって手榴弾と弾薬が2名のサハリン住民の元から発見された。コルサコフの警察官が数年前に手榴弾を発見し、自宅に隠していたと供述した28歳の男を拘束した。事件現場に機動捜査班と警察官が向かった。彼らは、隠し場所から危険物を除去した。後に手榴弾は、訓練用のPGD-5であることが判明した。この事実に関して捜査が行われている。52歳のスミルヌィフ在住の男の家のベランダにおいて、109発の様々な口径の銃弾が発見された。専門家の鑑定により、それら全てが射撃用に適合する軍用銃弾であることが分かった。この男は、これらの弾薬をどこで入手したのか、供述することを拒否した。刑事事件が提起された。
- ⑪〔薬物〕 3月31日、サハリン州麻薬流通対策局の捜査官が麻薬物質の販売に従事していた地元住民を拘束した。捜索活動措置を行った結果、麻薬流通対策局の捜査官は、2グループの人物（1つはユジノサハリンスク、他方はノグリキ）が、ハシシと所謂エクスタシー錠剤の販売を行っていた。活動の結果、サハリン州麻薬流通対策局の捜査官によって、5名が拘束された。身体捜索、拘束者の住居の隠匿場所の捜索の際、250錠以上の麻薬含有のエクスタシー錠及び大量のハシシが発見、押収された。売人の内

の1人は、青少年スポーツ施設のトップだった。拘束者の内の1人に対して、監禁下での身柄保全処分措置が選択された。麻薬流通対策局の捜査官によって、2件の刑事事件が提起された

6 その他

- ①〔誘拐〕 1月12日深夜、10歳の少年がマカロフ通りを歩いていた。凍えていた少年は、自動車に目が止まり、そこで暖まることを決めた。外国製の自動車に忍び込むと、少年は、思いがけずクラクションを押してしまった。自動車の運転手がクラクションの音を聞き、家から走り出て、自動車に急いで来た。男は少年を捕まえ、無理矢理、男の友人が来ている男の家に取り入れた。男は何度か少年の頭を壁に打ち付けた。その後、男達は、少年を別の部屋に移し、監禁した。翌朝、容疑者達は、少年を車に乗せ、何処かへ赴いた。警察による捜査活動の過程で重要な情報を受取った。警察官は直ちに少年の救出活動に着手した。マカロフ警察の全ての警察官が活動を開始し、50人以上が誘拐犯の捜索に派遣された。間もなく警察は犯人の車の位置を特定した。33歳と44歳の容疑者は拘束され、少年は両親に引き渡された。容疑者達は、以前から司法機関にマークされ、前科があることが判った。サハリン州捜査委員会マカロフ地区捜査課によって、ロシア刑法典の誘拐により刑事事件が提起された。
- ②〔脅迫電話〕 2月1日15時49分、ユジノサハリンスク市裁判所所長代理が警察の当直に、裁判所の電子メールに爆破の予告に関する情報があったとの通報した。直ちに、現場に警察の機動捜査班、他の司法機関の代表者及び非常事態局が出発した。コムニスチーチェスキー大通りに所在する裁判所の建物のほか、カール・マルクス通りの裁判所の建物にいた市民は、避難することを余儀なくされた。裁判所の建物に接する地区は、警察官により封鎖された。数時間、コムニスチーチェスキー大通りの通行止めとなった。到着した警察犬及び爆発物処理班が爆発物の捜索のため検査を行った。その結果、不審な物件は発見されなかった。この事実に関し、ロシア刑法典のテロ行為についての明らかに虚偽の情報を流す行為により刑事事件が提起された。容疑者の捜索が行われている。
- ③〔脅迫電話〕 3月11日、ユジノサハリンスクにおいて爆発物を設置したとの通報により、1時間の間に文字通り立て続けに3箇所の大型施設において、人々が避難する騒ぎがあった。まず、正午頃、市行政庁舎が不明の犯罪者の危険に晒され、職員は屋外に避難し、サハリン州内務局の専門家が庁舎内を点検した。現在、市行政庁舎は、通常どおり機能している。正午から午後1時までの間に、爆弾に関する通報により、2つの大型ショッピングセンター「シティーモール」と「スタリツァ」でも避難騒ぎがあった。現場では警察官が点検中であり、現在も人々は屋外に避難したままである。内務局の報道部門によれば、これら全ての施設では爆発物の発見はなかったが、正体不明の者からの電話のため、避難することとなった。現在のところ、本件が同一犯によるも

のであるか否かは不明である。なお、本日午前10時30分ころ、爆弾に関する通報により、ユジノサハリンスク空港でも一時、機能が停止した。こうして、1日の内に4つの施設に「爆弾が設置された」。これは過去数ヶ月でユジノサハリンスク市内における最初の電話テロ事件ではない。昨年11月にも数十分の間に、州政府、ショッピングセンターに「爆弾が設置された」。その事件においては、犯人は拘束され、ロシア刑法典に従い、矯正施設における6ヶ月の自由剥奪刑の判決を受けた。



一昨年1月～本年3月のユジノサハリンスク市内の犯罪発生場所

★ は犯罪発生の概略場所
(新聞等報道掲載分に限る)

ユジノサハリンスク市内では、一昨年1月から本年3月の間に、詳細な場所は不明ですが、殺人18件、強盗・強奪22件、強姦5件、傷害8件、薬物30件の犯罪が発生しており、窃盗に関しては市内各所で多数発生しています。

勝利広場